

SRID NEWSLETTER

No. 318 MAY 2002 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

5月号 キタ狐と日本経済 国際基督教大学名誉教授 中内恒夫
北京のカラオケ大会 ユニコ・インターナショナル株式会社 藤倉 洋一

お知らせ

1. 退会 中内 恒夫さん
休会 檜原 史恵さん

2. 会員異動 小林 一さん 地域整備公団 企画調査部長

守屋 隆志 さん 地域整備公団 常磐支部 都市計画課

キタ狐と日本経済

国際基督教大学名誉教授 中内恒夫

1 キタ狐物語

20年ほど前にテレビで見たキタ狐物語にまことに不思議な場面があった。とつぜん狂ったように親狐が子狐に襲いかかって追い払おうとする。とつぜんの親狐の変ぼうに子狐は心臓が止るほどのショックをうけるが、やがて一時の戯れとは見えない親狐に、冷厳な人生いや狐生の孤独（狐独？）を感じつつ深い悲しみの中に何やら分からずに去っていくのである。たった一匹で生きていくこと、これがキタ狐が一人前になる時に通らねばならぬ残酷なまでに非情な過程なのである。

何ゆえに自然はこういう不思議な元服の儀式を用意するのだろうか。サン・リオのカメラは美しくこの情景を捕らえる。涙さえ凍りつくような厳しい自然の中で子狐達

はやがて、親とともにあった暖かい巣を去ってとぼとぼとあてもない放浪の旅へと出かけなければならない。かれらを待つものは楽しかりし幼時の追憶をすら許さない厳しい闘いの生活である。この闘いが激しく厳しいものであればあるほど、おそらく親ばなれの断絶の儀式もまた冷厳なのだろう。

2 適者生存とグローバリズム

自然界の自由競争は環境に適したものを生かし、不適合なものを滅ぼすと言うのがダーウィンの「種の起源」を貫いている思想である。自由市場メカニズムの基本原則はこのダーウィニズムに基づいていて、市場に適合したものは生き残り、不適合なものは滅び去らねばならない。

だが、現実の人間社会では全くの自由放任下で競争が行われているわけではない。そこにはさまざまな人為的介入が行われて?適者生存法則が余りに冷酷に働くのを緩和する政策が行われる。その形態や程度は、歴史的・文化的・倫理的条件によって異なり、社会の時代的価値観によって様々な様相を呈する。

日本は明治以後、欧米にキャッチアップすべく政府主導型の経済発展をとげてきたために、公的な介入・保護は欧米に比して極めて大きく、特異な型をなして来た。だが、1960年代の所得倍増政策始め、工業化の選択と高成長の世界的マーケットの一致などがあって、奇跡といわれる高度成長をとげた。ロンドン・エコノミスト誌などは2度にわたって日本経済の奇跡を特集したほどである。企業経営についても日本型がおおいに研究され、米国は日本の長所の吸収につとめた。

3 衰退の兆し

だが高度成長をいつまでも続ける事は難しい。高賃金はコストにはねかえる。これがマクロの競争力と両立するためには、産業構造の不断の高度化を行い、競争力を失ったセクターから、知識・技術集約的部門に不断に変化していかねばならない。しかし、人間はどうしても安きにつく悪癖を捨てきれない。地価の恒久的（と思われた）上昇によるバブルが去ってみると、本当に競争力のある未来型部門でなく、いびつな古物に囲まれた経済が残され、不良債権の山が子孫の肩に重圧を加えている。

4 再生への途

キタ狐の逸話を考えてみる必要がある。本当に将来を切り開ける部門を全力をあげて伸ばさなくてはならない。銀行は、命をかけてこういう企業者には金を貸さねばならない。国民もまたベンチャーキャピタルを投資すべきだ。凍り付いた野原を走ってみななければならない。幸い、まだ体力はある。ロボット、ナノテク、バイオ・・・を伸ばして動態的国際分業（大来佐武郎氏や小島清氏のよく使った用語）をすすめる事、これが中国やNIEsに対応する道である。

わたしは今春定年を迎えました。創設期以来 SRID の皆様から与えられた大きな刺激の数々を思い浮かべながら、感謝申し上げ、この大切な時期にますますの御活躍を祈ります。わたしの方は老狐になって、走るのは苦手でも、若者の行く手を見て、投資をする事は出来ます。 市場よ、永遠なれ！

北京のカラオケ大会

ユニコ・インターナショナル株式会社 藤倉 洋一

「悪の枢軸国」といわれている北朝鮮を、韓国が「太陽政策」で友好関係を打ちたてようとしています。これはグリムの童話「太陽と北風」からヒントを得た命名です。旅人のコートを脱がせようと太陽と北風が競いますが、最終的に太陽がその暖かさで勝ちます。しかし「心を開かせる」という意味では、太陽のように振舞うのは容易ではありません。

やや旧聞に属しますが、太陽のエネルギーと取り組んで、1月の末、当社の池田貴昭さんが輝かしい賞を獲得しました。《新エネルギー財団会長賞》です。毎年恒例の「**新エネ大賞**」授賞式は、東京ビッグサイトで、資源エネルギー庁長官らが列席する中行なわれました。注目されたのは「富士重工」の低風速・低ノイズの風車だそうですが、池田さんも堂々たる入賞です。

素人には非常に解りにくいのですが、「ヴァーサタイル・デザイン・プロトコル」と命名されたこの発明・開発は、太陽光発電システム設置予定地の気象条件を含めた環境をコンピューターで解析し、発電量を算定し、太陽光発電工作物の寸法・形状の決定を行なうものです。具体的な工作物は公園標識や道路標識などで、すでに国営昭和記念公園の防災サインに導入されています。

太陽の歌というとイタリア民謡「オーソレミオ」を思い出します。いつ聴いても元気一杯になる曲です。「カラオケ」も又ずっと以前から日本が世界各国に輸出してきた人生に彩りを添える文化です。今年は日中国交回復 30 周年で、様々なイベントが計画されているようですが、1998 年の秋北京で、日中平和友好条約締結 20 周年を記念して『中日友好カラオケ大会』を開催したことがあります。

北京では例年秋に、日中友好促進を目的として、日本人会主催で“ジャパンウィーク”と銘打ち、テニス、囲碁、将棋などのスポーツ・文化行事が行なわれるのですが、20 年の節目ということもあり、新しい企画を試みようということになりました。当時日本人会の副会長をしていた私はこれに大きく巻き込まれ、「カラオケ大会」を企画・運営することになりました。

当初反対意見もありました。東南アジアの各国と同様、中国でも「カラオケバー」といえば、実態はホステスのいるクラブです。そんな不健全な遊びを記念行事にするのは不謹慎だというわけです。天安門広場での凧揚げ大会や人力車を使つての胡同めぐりなどの案も検討されました。

すき

実際、カラオケバーの開放度合いはこの5、6年凄まじいものがあります。私が赴任した1996年当時は、いつ乗り込んでくるかもしれない公安警察を警戒して、店の小姐（ホステス）は床に座布団を敷いて客の話し相手をしていました。並んで座るのも、お酒を注ぐのも、一緒にダンスを踊るのもいけないなど制約だらけでした。それが98年頃からかなり自由になり、場所によっては如何わしい行為も行なわれるようになりました。ですから“相応しくない”というのも一理ありました。

カラオケ

しかし、開催するのはのど自慢大会です。?拉OK自身何らやましいものではありませんし、日本人会会長の金子さんも、青信号の英断を下しました。それからが一苦労でした。中日友好協会に申し入れ、協力を取り付け、実行委員長は天野さんに白羽の矢を立てました。天野さんは邦銀A行の首席駐在員で、性格も明るく実行力もあります。そして準備が始まりました。

司会は、日本人会会長知己の日本語も堪能なFM横浜ディスクジョッキーの呉小芸(女性)さんと天野夫人の姉でプロの堂尾アナウンサーの2人をお願いしました。2人とも日本在住ですが、うまいことに往復のフライトは某航空会社の支店長である金子さんの按排です。会場は、中日友好協会の敷地内にある以前は教会のチャペル(礼拝堂)だったという講堂を使うことにしました。会場を埋めるには150名以上の観客動員が必要です。

出場者は自薦他薦で中国人・日本人それぞれ10名に参加してもらうことにしました。思ったより早く20名が決まりました。男女数に偏りもなく、日本の大手企業や中国の国有企業などからも出場表明がありました。曲名を申告してもらい、天野さんがCDやカセットテープを集め始めました。本当にうまくいくだろうか?観客は来てくれるだろうか?常にそんな心配が頭をもたげました。

大会は10月24日の土曜日に行なわれました。飲み物やおやつの持ち込み、会場のセッティングは中日友好協会の職員、日本人会事務局長の河原さん、銀行の中国総代表処の邦人職員が総出で手伝ってくれました。スポットライト機器は某ホテルからの借用です。オーディオセットなどの豪華賞品も舞台の横に並べられました。

開演の午後2時前には会場の観客席もほぼ埋まり、最前列には審査委員が陣取って

ます。日本側からは、金子日本人会会長と若手歌手の酒井美子さん。酒井さんは日本レコード大賞で新人賞を取ったこともある実力派です。中国側からは、黄世明中日友好協会会長と有名な大物女性歌手成方圓さん。黄さんが審査委員長です。

プロの司会で進行は実にスムーズでした。中国語、日本語が入り乱れてののど自慢大会でした。応援に駆けつけた人も大勢います。20人が歌い終わるのに2時間弱かかりましたが、あっという間でした。会場からは自分も歌いたいという人が現れる始末で、大盛況です。

ちょっとした“事件”が起りました。審査委員4人から審査メモを回収しようとしたら、中国人の2人が何も記入していないのです。訳を聞いたら、大変な接戦だから話し合おうと言います。仕方なく4人を別室に呼び込み、話し合いが始まりました。特別賞と3位は難なく決まりました。ところが1位と2位は甲乙つけがたいのです。“FOR YOU”を歌ったT社の日本人OL平井さんは歌唱力抜群でした。中国人女性王春来さんの中国民謡“喜馬拉雅”は玄人はだしのうまさでした。日本人審査員は王さんを推しましたが、ところが中国側審査員は平井さんのほうが素晴らしいというのです。私はどちらが優勝してもおかしくないと思いました。こうなるとどちらが強くと主張するのですが、2人の中国人審査員が強引でした。黄さんが審査委員長でもあり、金子さんが折れる形となり、平井さんが優勝の榮譽に輝くことになりました。大会名にふさわしい、美しい譲り合いでした。

このカラオケ大会の成功のおかげもあって、中日友好協会事務局のトップ李鉄民さんや王女史と大変親交を深めることができました。二人とも日本語が堪能で、王女史は日本の47都道府県をすべて訪問したことがあるほどの日本通です。1983年、戦後北京で最初にオープンしたという日本料理屋“割烹白雲”に招待してくれたのもこの二人です。中国美術館にほどちかい友誼賓館というホテルのある四合院の一角にあり、今はあまり知られていませんが、戦前、蒋介石の別荘だったこともあり、またかつて趙紫陽元首相も通ったという由緒ある料理店です。

この日本料理屋の掘り炬燵のある古めかしい和室で、“太陽の出ずる国”から来た派遣員に、てんぷらとすき焼きをご馳走してくれました。中国人としては珍しいもてなし方です。

2002年4月1日